

専門高校における産学連携に関する実態調査（全国専門高校アンケート調査）

株式会社内田洋行 教育総合研究所

- 調査概要
- 結果
 - 単純集計
 - 分析
 - リサーチクエスチョンに基づく分析
 - 相関分析
- 付録
 - 質問項目一覧

調査概要

項目	内容
目的	専門高校と産業界等の連携について、取組内容や体制等の実態を把握する。
対象	全日制の専門高校。 大学科(農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉科)を抽出単位とし、計420大学科を抽出し、管理機関経由で調査を依頼した。
方法	Webアンケート調査
期間	2024/12/02～2025/01/24
回答データ数	371／420大学科(回収率88.3%)から回答が得られた。※詳細は次頁

抽出数と得られた回答数

		層別抽出大 学科数※	抽出大学科 数	回答大学科 数	合計回答大 学科数	回答大学科 数(%)	合計回答大 学科数(%)
全日制_農業	公立	64	65	58	59	90.6%	90.8%
	国私立	1		1		100.0%	
全日制_工業	公立	95	115	91	105	95.8%	91.3%
	国私立	20		14		70.0%	
全日制_商業	公立	94	124	86	105	91.5%	84.7%
	国私立	30		19		63.3%	
全日制_水産	公立	10	10	10	10	100.0%	100.0%
	国私立	0		0		—	
全日制_家庭	公立	36	56	31	47	86.1%	83.9%
	国私立	20		16		80.0%	
全日制_看護	公立	7	22	7	20	100.0%	90.9%
	国私立	15		13		86.7%	
全日制_情報	公立	5	6	5	6	100.0%	100.0%
	国私立	1		1		100.0%	
全日制_福祉	公立	14	22	13	19	92.9%	86.4%
	国私立	8		6		75.0%	
合計		420		371			

※ただし、抽出はマイスター・ハイスクール事業、マイスター・ハイスクール普及促進事業の事業実施校を除外した上で実施した。
また、学校負担等を考慮し、1校につき2大学科以上が抽出されないよう抽出した。

※国立の専門高校は数が少ないため、実際に抽出された学校は0校であった。

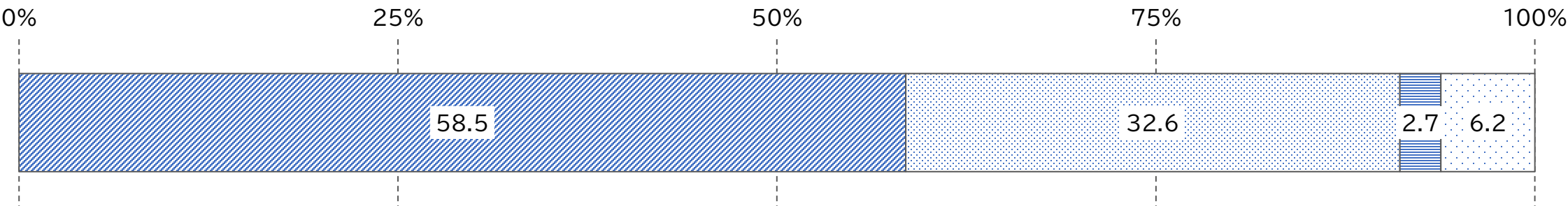
質問項目一覧(全国アンケート)

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	全般	産学連携の深さ	貴学科では今年度、産学連携の取組を実施していますか。
q2		産学連携の深さ 補足	貴学科が、産学連携を実施していない理由を教えてください。
q3		産学連携の深さ 補足	貴学科で、産学連携を教育課程の一環として組み込んでいない理由を教えてください。
q4		産学連携歴	貴学科では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？
q5		きっかけ	産学連携に取り組んだきっかけを教えてください
q6	産学連携の取組	目的	貴学科が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。
q7		取組内容	今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。当てはまるものを全て選択してください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。
q8	産学連携を持続的に推進するための体制の在り方	産学連携に関わる企業・団体数	今年度実施した産学連携に関わっている企業や団体等の数を教えてください。※これから実施予定のものも含めてお答えください。
q9		連携先企業・団体	今年度の産学連携に関わった企業や団体等の種類を全て選択してください。
q10		連携先企業・団体	連携している企業・団体等について、当てはまるものを全て選択して下さい。
q11		連携先企業・団体	企業や団体等とどのような形で連携していますか？あてはまるものを全て選択してください。
q12	産学連携の取組	産学連携の学科目標・ビジョンへの貢献度	産学連携の活動が、貴学科の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？
q13		連携の効果	産学連携の取組を通じて、貴学科として実感しているメリットを教えてください。
q14	取組の実施プロセス	取組の検討主体	産学連携の取組は、主にどの組織が中心となって検討を進めていますか。
q15	取組や体制の在り方に大きく影響を与える要素	産学関係の深まり	貴学科が連携している企業や団体等との関係について、最も適切なものを選択してください。 ※複数の組織と連携している場合は、最も多く該当する関係をお答えください。 ①一方のニーズに応えている関係 主に、学校や企業・団体等のどちらか一方のニーズに基づいて活動が行われている段階。 企業等側の課題やニーズを十分に理解できていない。 ②協力しあっている関係 学校と企業・団体等が互いに理解を深めながら、協力して活動している段階。 協力できる分野や活動についてある程度の共通認識があるが、活動内容はどちらか一方のニーズが優先されやすい。 ③共通のビジョンに基づいて協働している関係 学校と企業・団体等がそれぞれの課題や目指す方向を共有し、共通の目的やビジョンを持って活動を行っている。 学校と企業等との関係は互恵的で、双方が取組から恩恵を受けている。 ④安定して取組を継続していける関係 学校と企業・団体等の間で、長期的で安定した協働関係が確立されている。 共通の目的やビジョンが明確に共有され、計画から実施、評価まで一貫したプロセスに基づいて行われている。 担当者が変わっても、信頼関係や取組が維持できる体制が整っている。
q16	全般	課題	産学連携において、貴学科が抱えている課題があれば教えてください。
q17	産学連携を持続的に推進するための体制の在り方	調整業務	貴学科では、企業や団体等との調整業務を誰が担っていますか。当てはまるものをすべて選択してください。
q18		調整業務	調整業務を担う専門人材(コーディネーター等)の配置にかかる費用は、どの組織が負担していますか。 当てはまるものを全て選択してください。
q19		基礎自治体との連携の深さ	学校の所在する基礎自治体と連携した取組を実施していますか。
q20		基礎自治体からの資源提供	学校の所在する基礎自治体から、資金や人材の提供(寮の整備など場所の提供も含む)等を受けていますか。

結果(単純集計)

Q1.産学連携の取り組みの実施状況

Q1. 貴学科では今年度、産学連携の取組を実施していますか。(n=371)(単一選択式)



■ 教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している

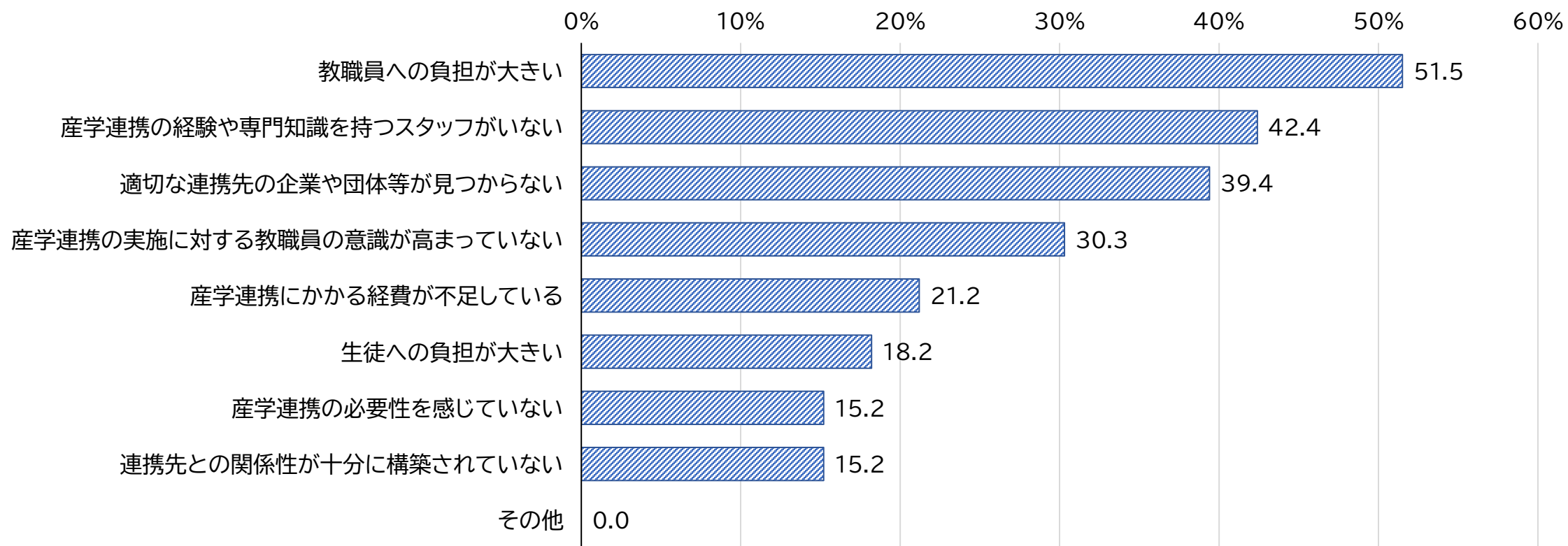
■ 年に数回の出前授業やイベント等、単発的な取組として実施している

■ 以前は実施していたが、今年度は実施していない

□ 以前より実施していない

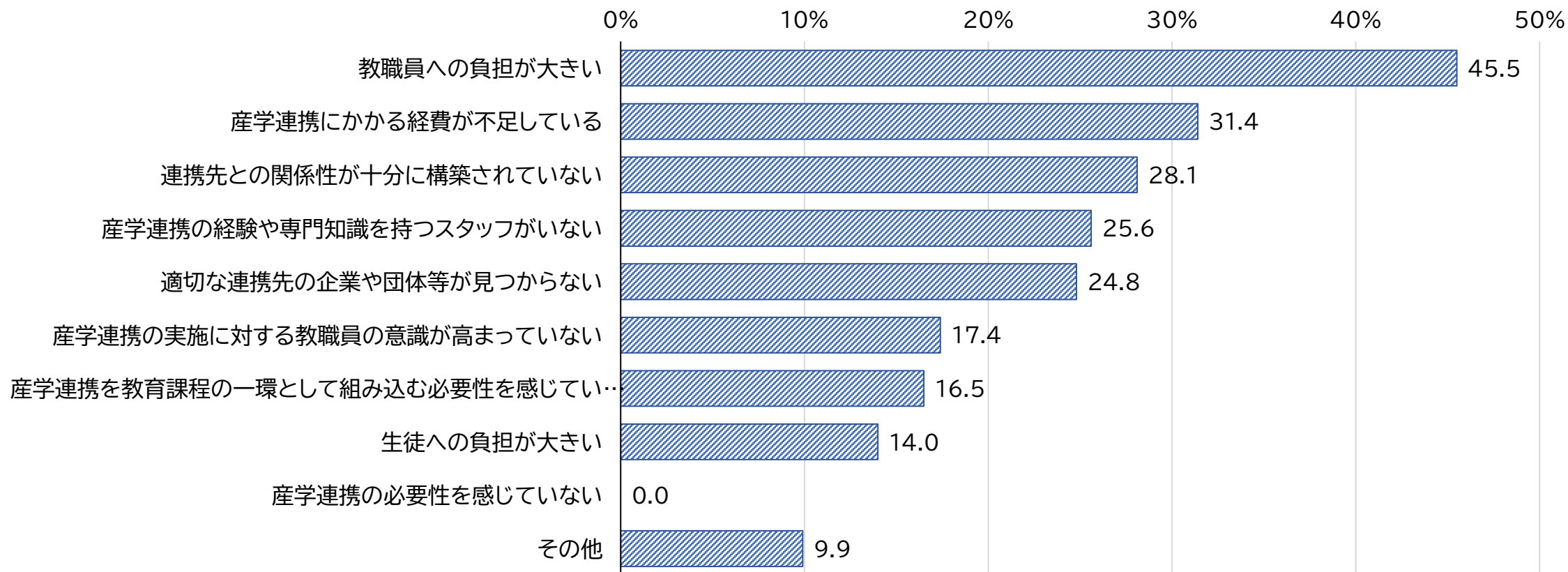
Q2.産学連携を実施していない理由

Q2. 貴学科が、産学連携を実施していない理由を教えてください。(n=33)(複数選択式)



Q3.産学連携を教育課程に組み込んでいない理由

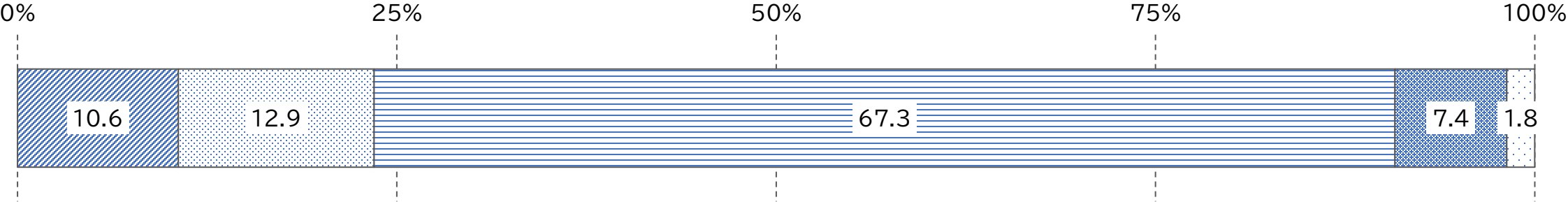
Q3.貴学科で、産学連携を教育課程の一環として組み込んでいない理由を教えてください。 (n=121)(複数選択式)



「その他」の例:授業時間の確保が困難、教育課程に組み込んでいないが十分な連携と考えている 等

Q4.産学連携を継続的に組み込んだ教育活動の開始時期

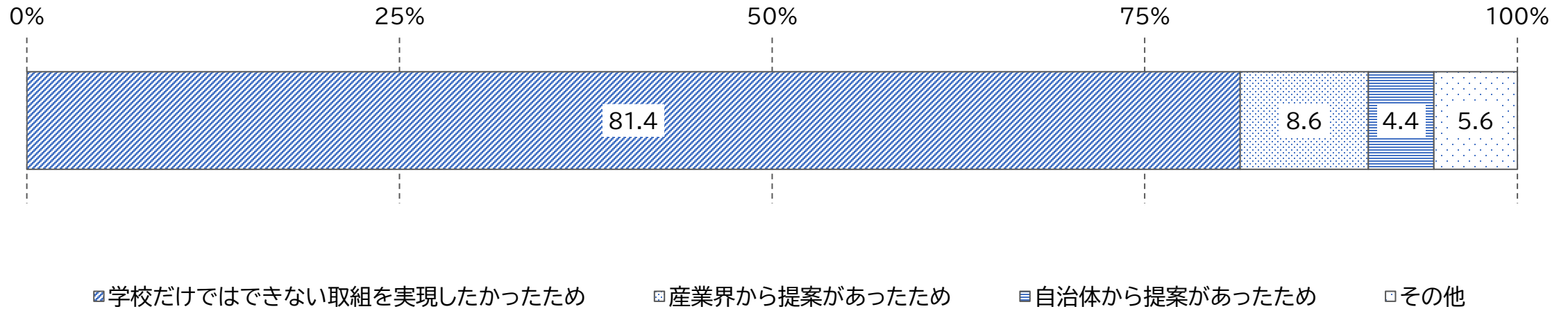
Q4.貴学科では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？(n=217)(単一選択式)



- 2022年以降に実施(現在の学習指導要領のもとで開始、1～2年前から)
- 2017年度以前に実施(6年以上前から継続して実施)
- 2018年度～2021年度に実施(現行指導要領施行前に開始、3～5年前から)
- いつからか不明
- その他

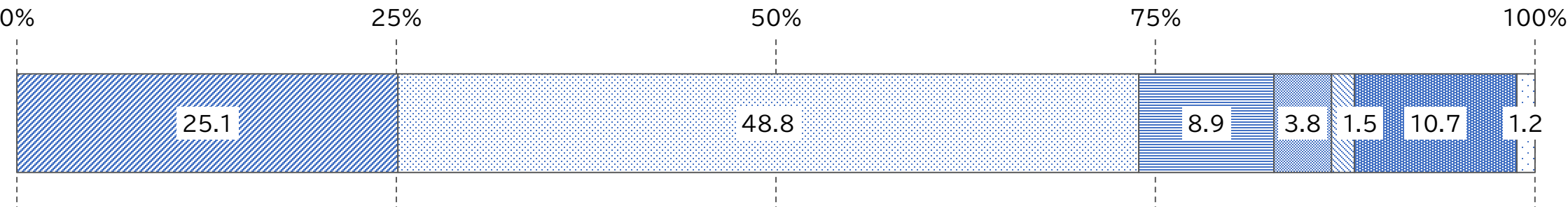
Q5.産学連携に取り組んだきっかけ

Q5.産学連携に取り組んだきっかけを教えてください(n=338)(単一選択式)



Q6.産学連携に取り組む目的

Q6.貴学科が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。(n=338)(単一選択式)

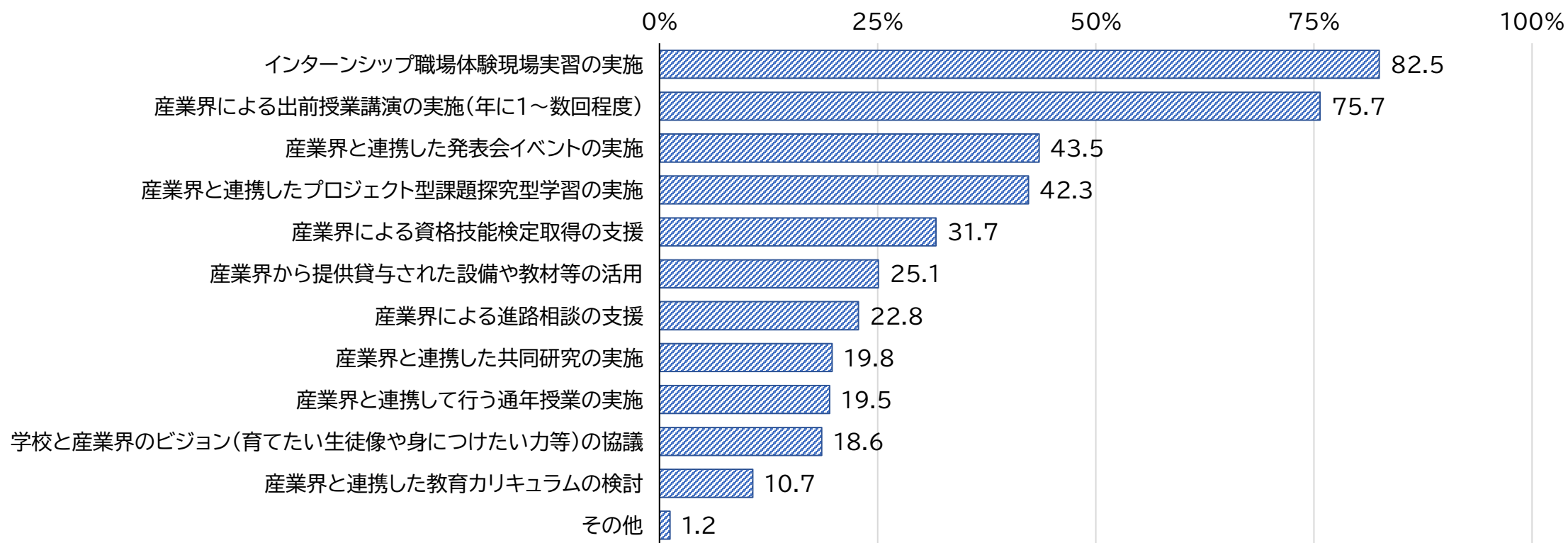


- キャリア教育を充実させるため
- 課題解決力を育む学習を充実させるため
- 入学希望者が増えるよう、学校の魅力を高めるため
- その他

- 実践的な知識や技能を習得する学習を充実させるため
- 協働的な学びを充実させるため
- 地域社会が求める人材を育成するため

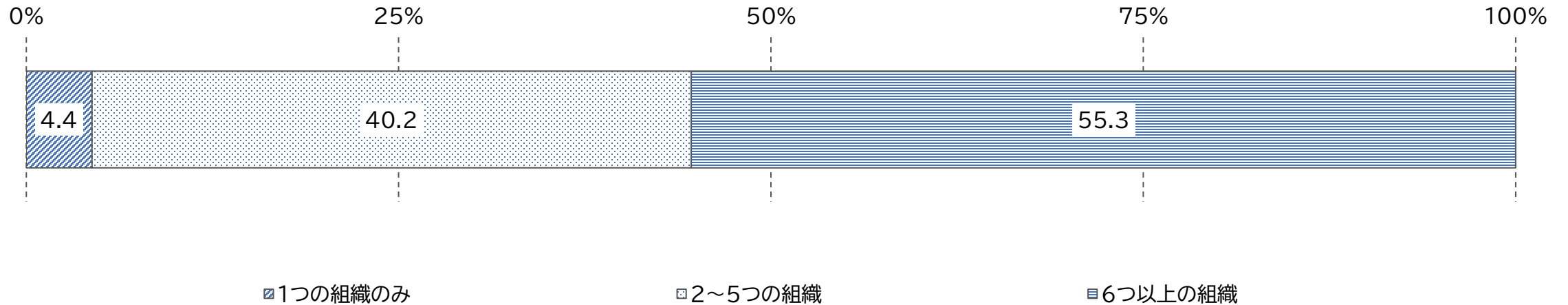
Q7.産学連携の取り組み内容

Q7.今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組内容を教えてください。(n=338)(複数選択式)



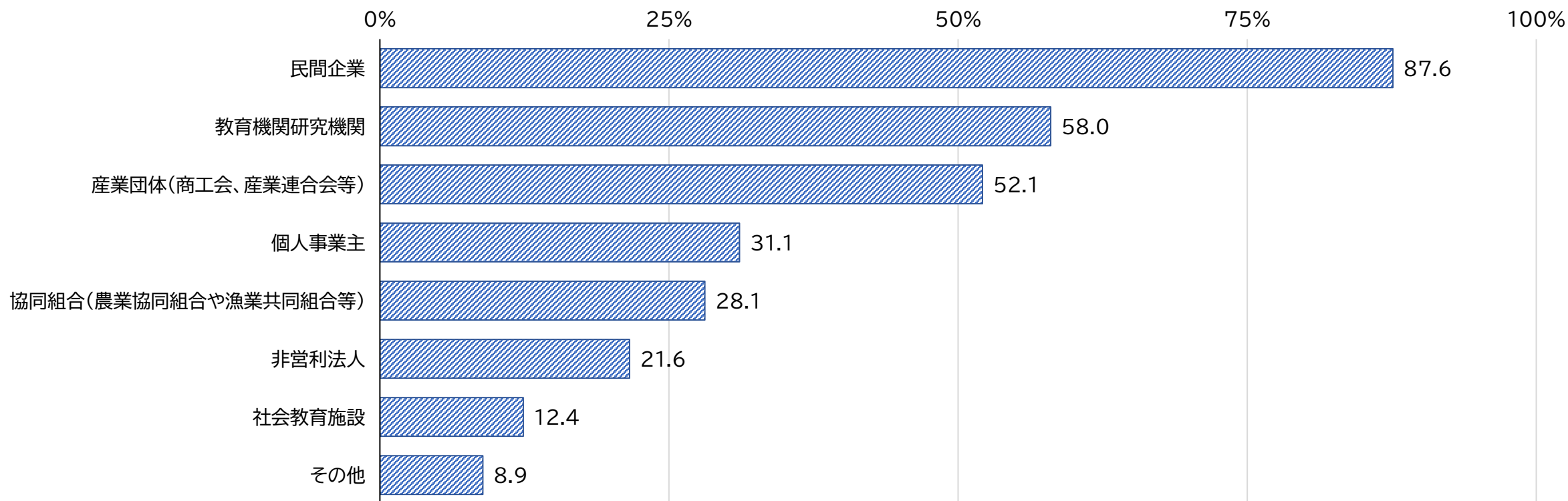
Q8.産学連携に関わっている企業や団体等の数

Q8.今年度実施した産学連携に関わっている企業や団体等の数を教えてください。(n=338)(単一選択式)



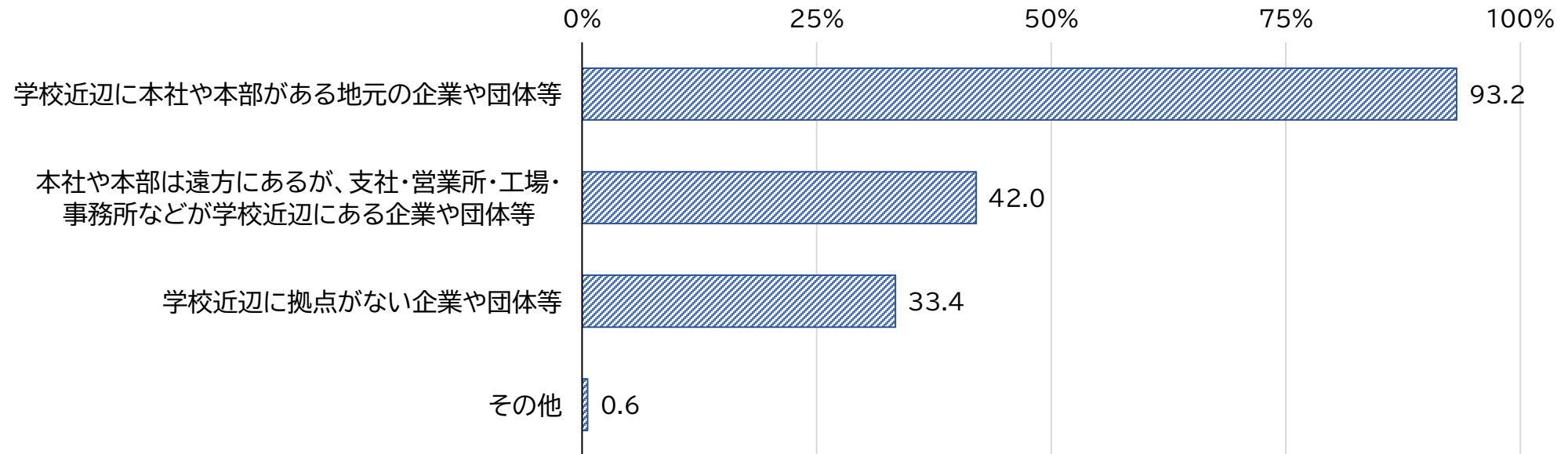
Q9.産学連携に関わった企業や団体等の種類

Q9.今年度の産学連携に関わった企業や団体等の種類を全て選択してください。(n=338)(複数選択式)



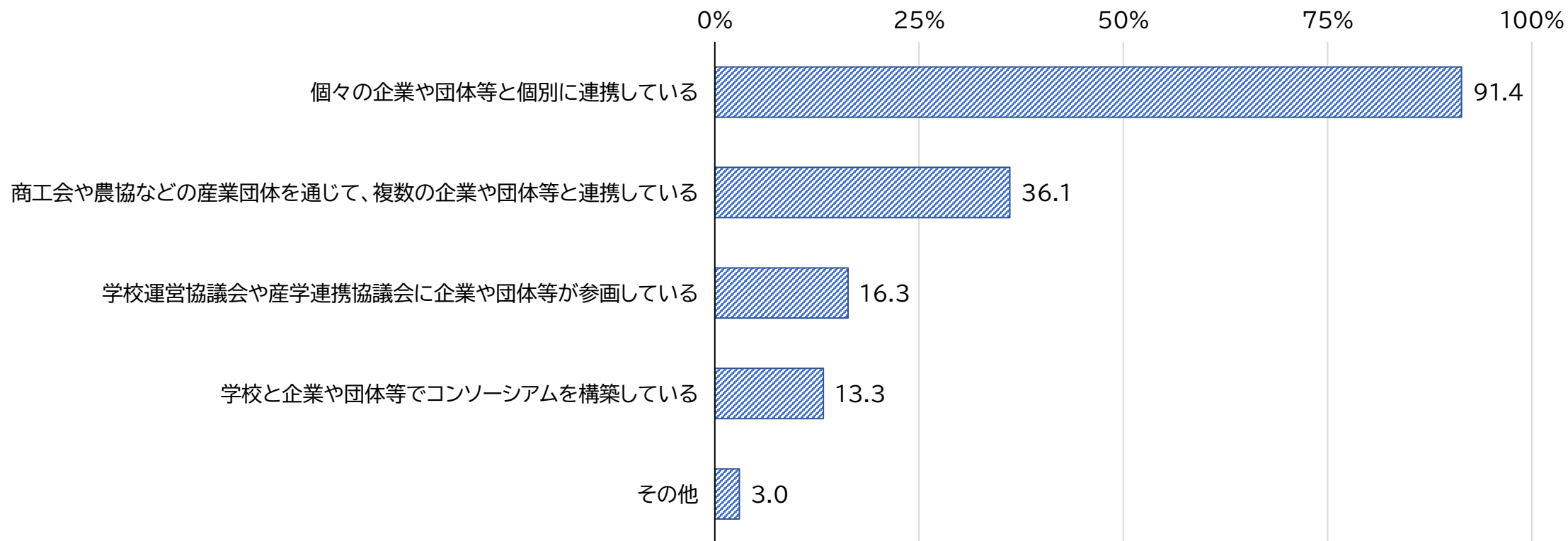
Q10.連携している企業・団体等の種類

Q10.連携している企業・団体等について、当てはまるものを全て選択して下さい。(n=338)(複数選択式)



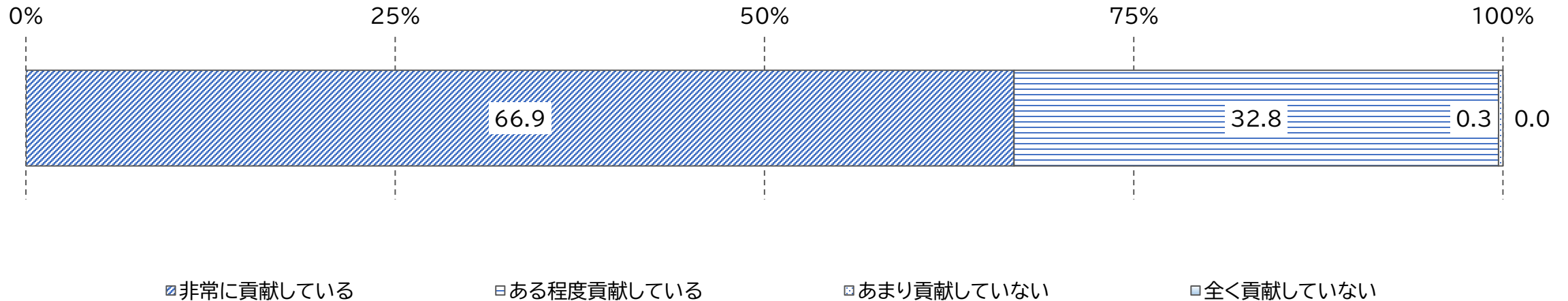
Q11.企業や団体等との連携の形

Q11.企業や団体等とどのような形で連携していますか？あてはまるものを全て選択してください。(n=338)(複数選択式)



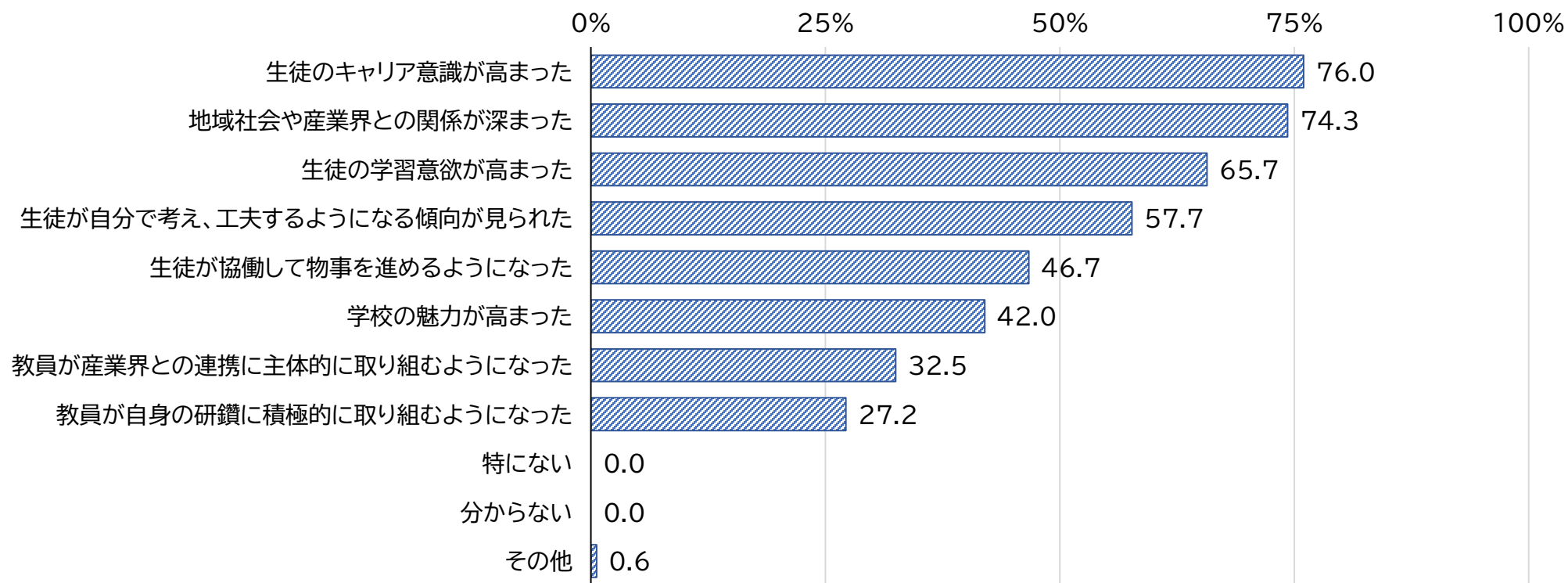
Q12.産学連携の学科の目標やビジョンに対する貢献度

Q12.産学連携の活動が、貴学科の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？(n=338)(単一選択式)



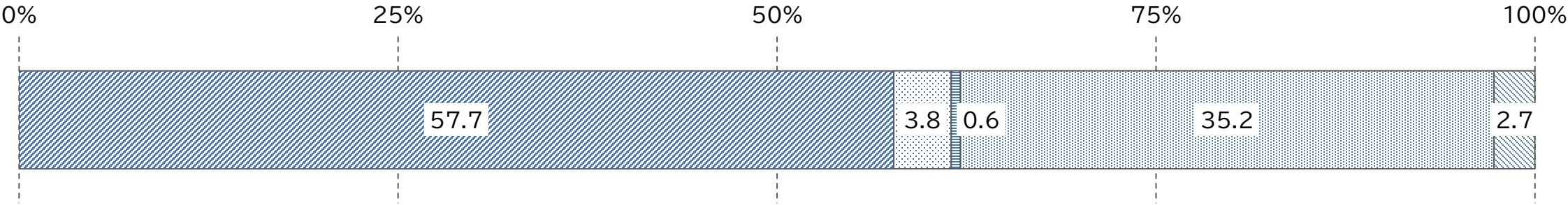
Q13.産学連携を通じて実感しているメリット

Q13.産学連携の取組を通じて、貴学科として実感しているメリットを教えてください。(n=338)(複数選択式)



Q14.産学連携の取組の中心組織

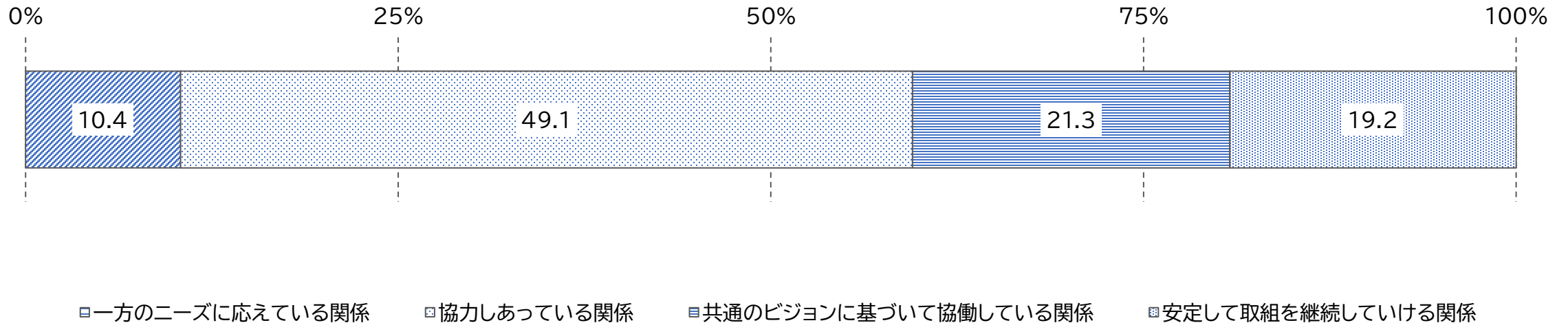
Q14.産学連携の取組は、主にどの組織が中心となって検討を進めていますか。(n=338)(単一選択式)



- 学校が主体となって検討している
- ▣ 企業や団体等が主体となって検討している
- ▤ 自治体が主体となって検討している
- ▥ 学校と企業団体等が対等な立場で検討している
- ▧ 学校や企業団体等が参加する組織(コンソーシアム、協議会、委員会等)で検討している

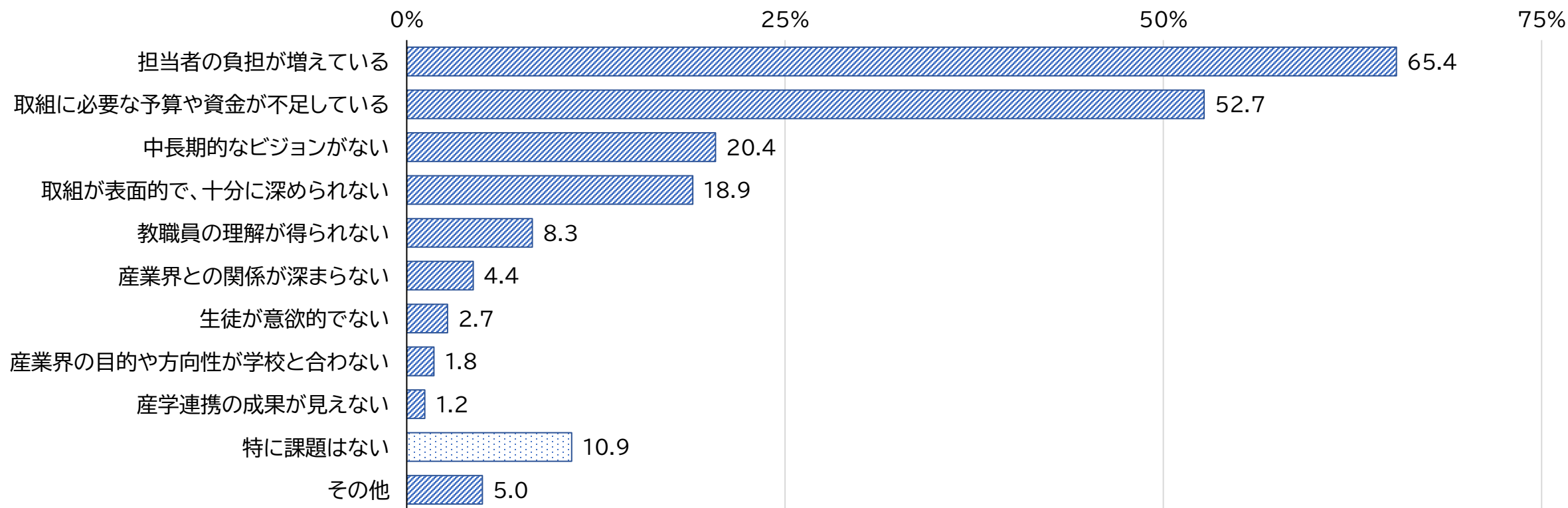
Q15.連携している企業や団体等との関係

Q15.貴学科が連携している企業や団体等との関係について、最も適切なものを選択してください。(n=338)(単一選択式)



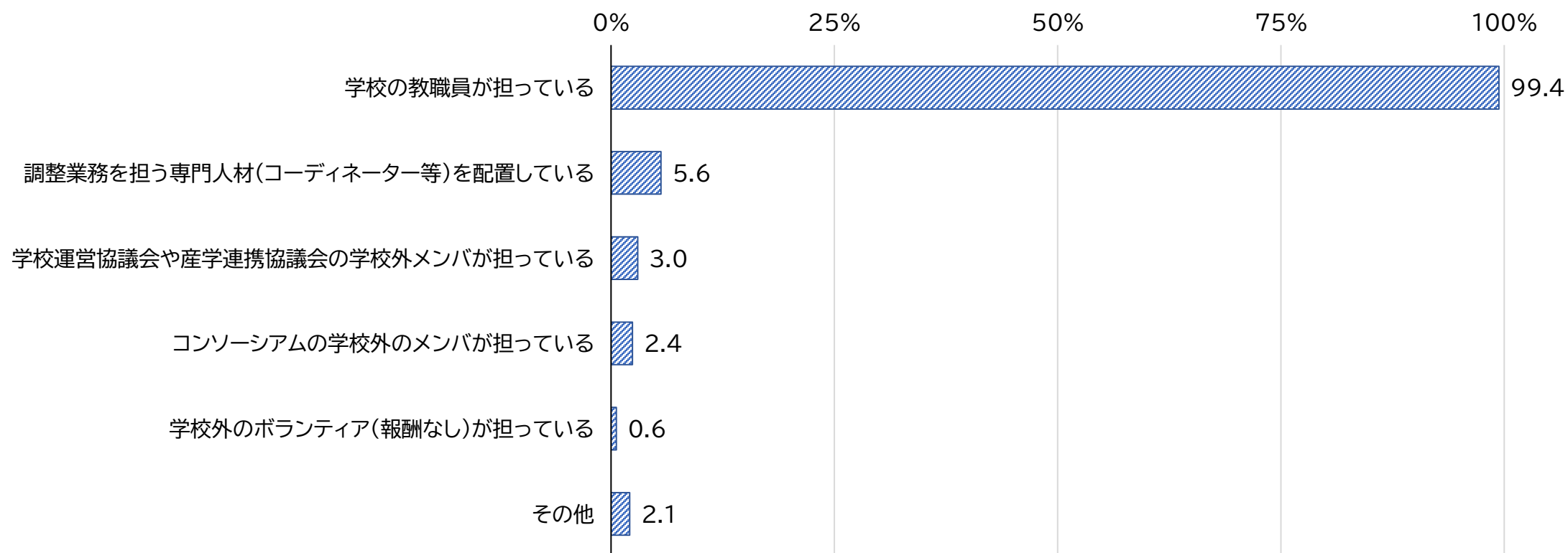
Q16.産学連携における課題

Q16.産学連携において、貴学科が抱えている課題があれば教えてください。(n=338)(複数選択式)



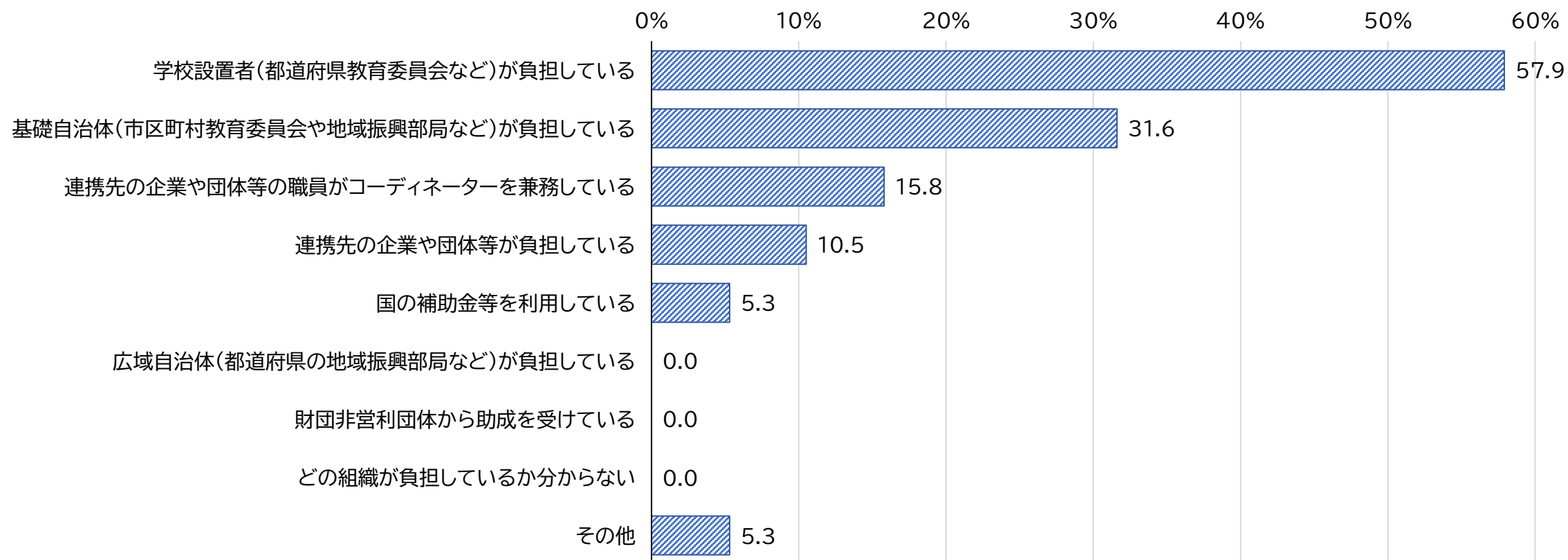
Q17. 企業や団体等との調整業務の担当者

Q17.貴学科では、企業や団体等との調整業務を誰が担っていますか。(n=338)(複数選択式)



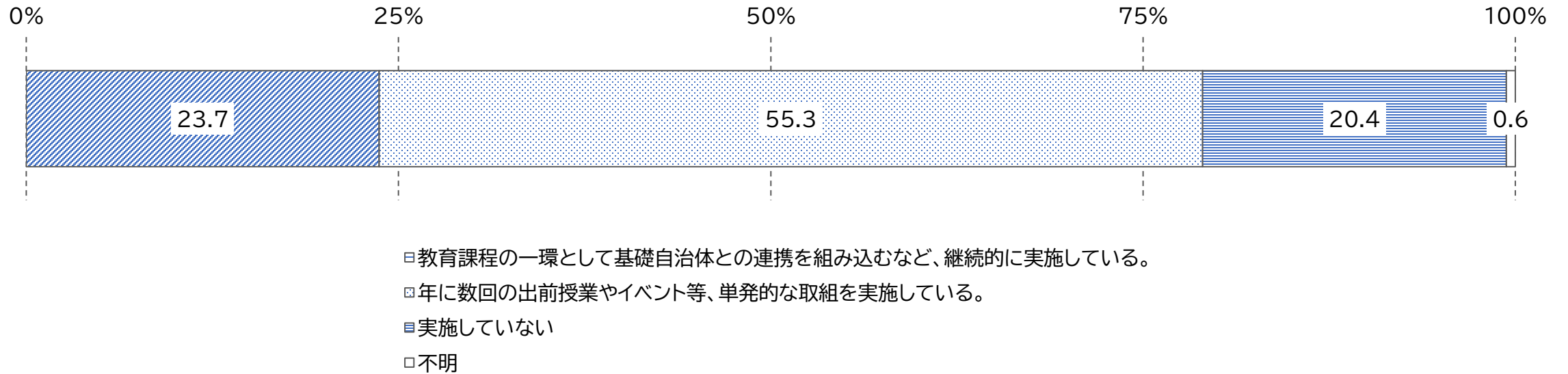
Q18.調整業務を担う専門人材にかかる費用負担

Q18.調整業務を担う専門人材(コーディネーター等)の配置にかかる費用は、どの組織が負担していますか。(n=19)(複数選択式)



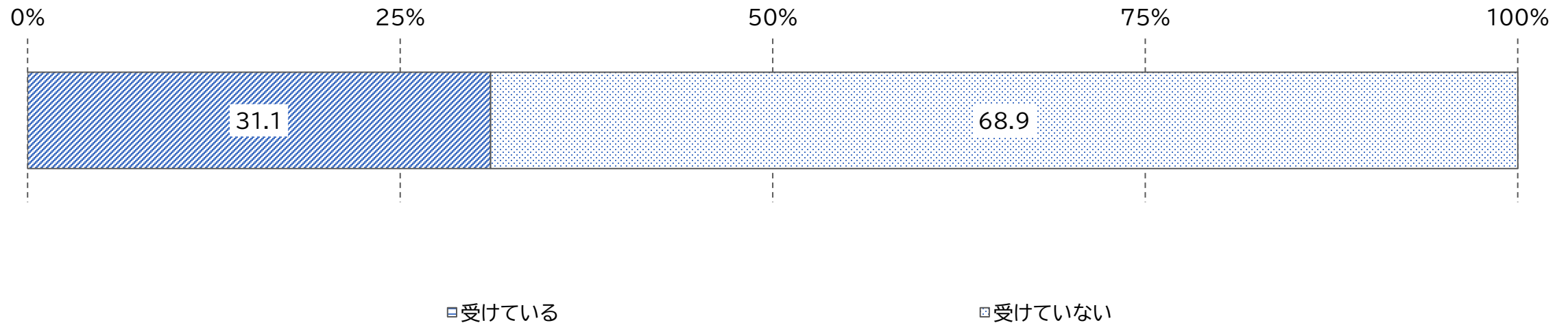
Q19. 基礎自治体と連携した取組の実施状況

Q19.学校の所在する基礎自治体と連携した取組を実施していますか。(n=338)(単一選択式)



Q20. 基礎自治体からの資金や人材の提供等の有無

Q20. 学校の所在する基礎自治体から、資金や人材の提供
(寮の整備など場所の提供も含む)等を受けていますか。(n=338)(単一選択式)



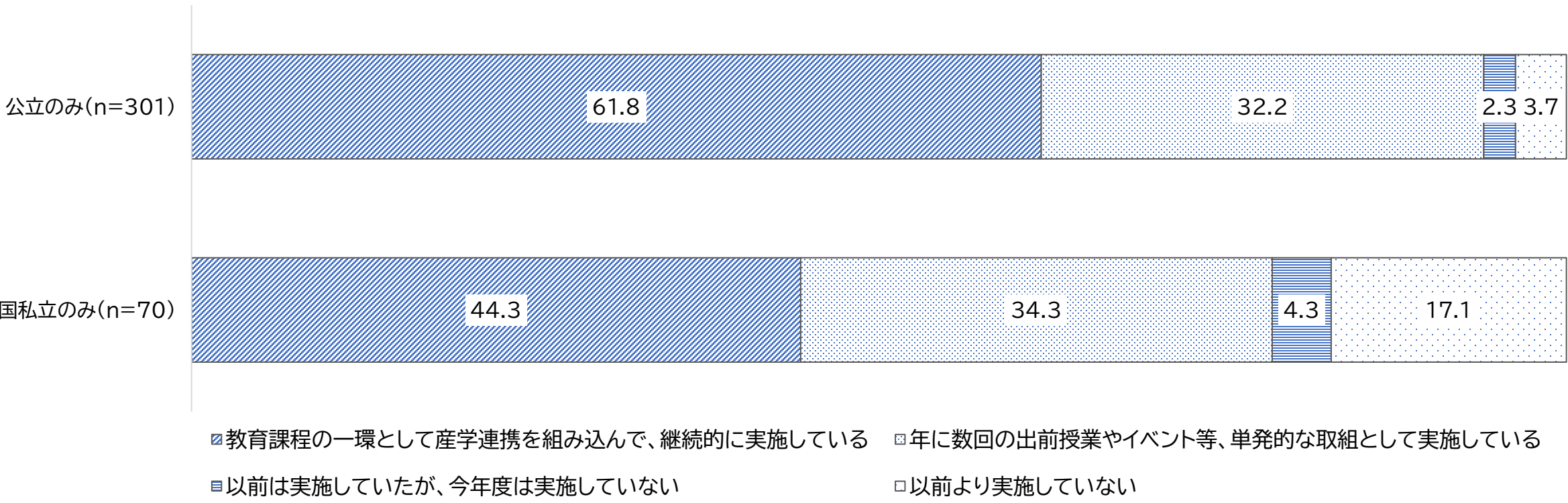
結果(リサーチクエスチョンに基づく分析)

内容
公立・国私立間で産学連携のありかたに違いはみられるか
産学連携を教育課程の一環として組み込み、継続的に実施することは、学科目標やビジョンへの貢献度を高めるか(Q1を群としたQ12平均値比較)
産学連携歴が長いほど、より成果を上げているか(Q12×Q4クロス集計)
取組目的により、成果の評価が異なるか(Q12×Q6クロス集計)
取組内容により、得られる効果に違いがあるか(Q13×Q7クロス集計)

RQ: 公立・国私立間で産学連携のありかたに違いはみられるか

- 公立の専門高校のほうが「教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している」割合が約18%高い。
- 国私立の方が「以前より実施していない」割合が約13%高い。

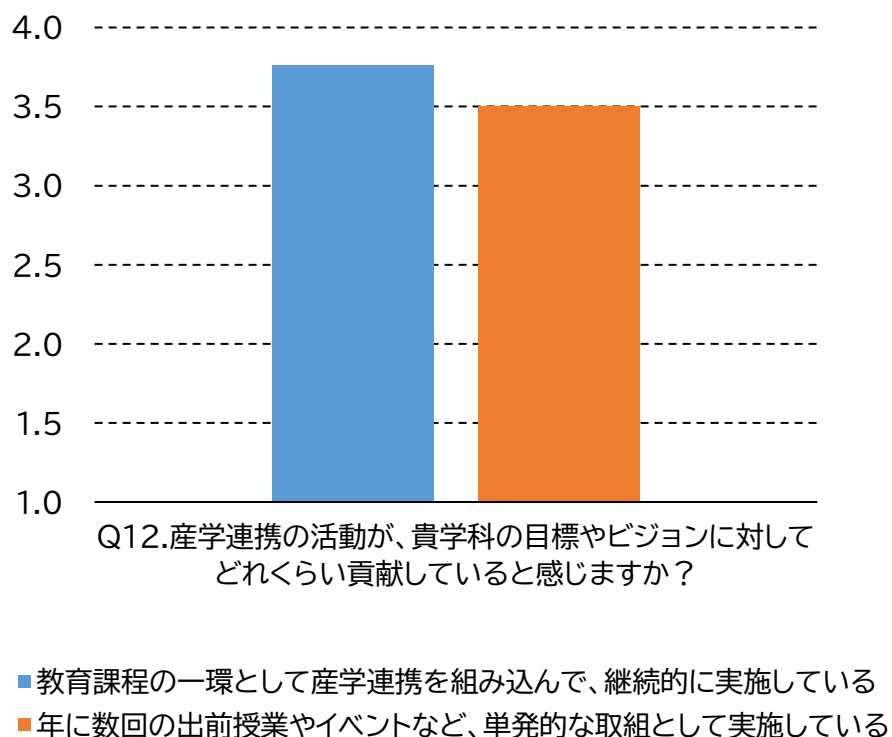
Q1. 貴学科では今年度、産学連携の取組を実施していますか。(単一選択式)



※「国私立のみ」の内訳について、n=70はすべて私立であった(国立の専門高校は数が少ないため、抽出されたのは0校であった)。

RQ:産学連携を教育課程の一環として組み込み、継続的に実施することは、学科目標やビジョンへの貢献度を高めるか(Q1を群としたQ12平均値比較)

- 「教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している」ほうが、そうでない(単発的な取組)よりも学科目標やビジョンに貢献していた。(4点(そう思わない)～1点(そう思わない)で点数付与し平均値を算出すると、他の立場の教員より約2.6ポイント高い)。
- 得られる示唆の例:産学連携は、教育課程の一環として組み込み、継続的に実施することが有効。



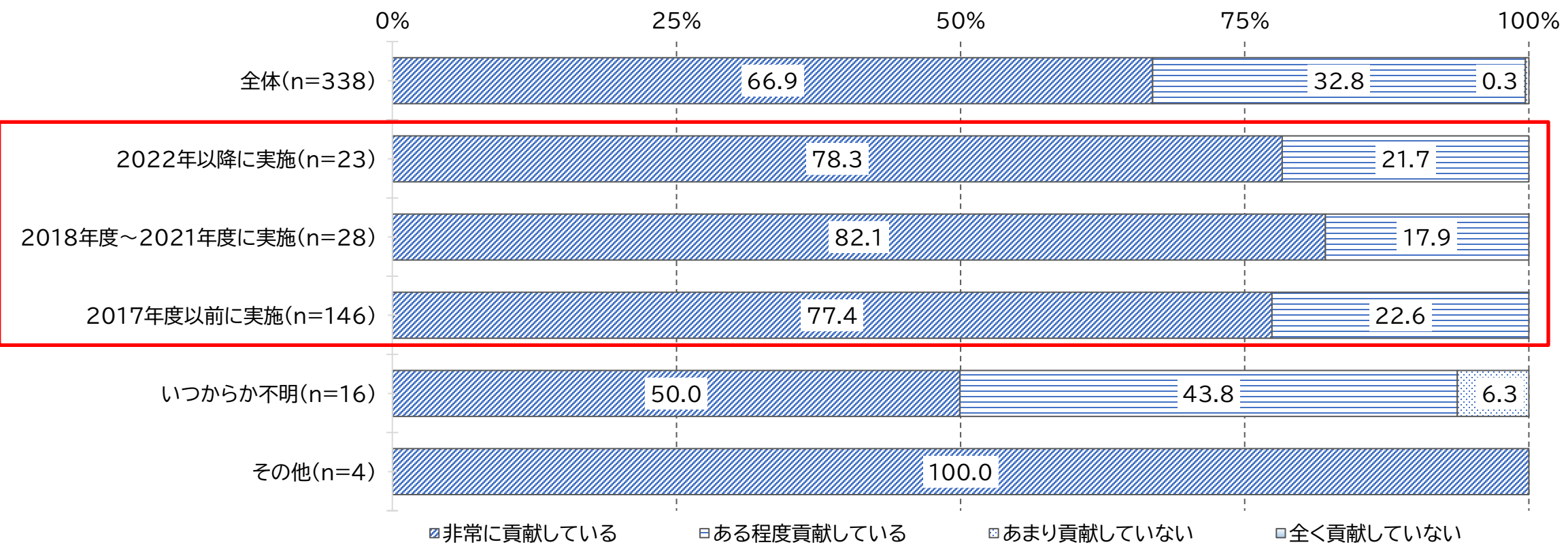
※等分散性を仮定しないt検定を実施した結果、統計的に有意な差が示された($t(222)=4.85$, $p<.001$, $d=0.56$)。

dは効果量を示し、2群の平均値がどれほど離れているかを示す。大まかな目安として、大きさが0.2以上のとき「小さな差」、0.5以上のとき「中程度の差」、0.8以上のとき「大きな差」とされる。

RQ:産学連携歴が長いほど、より成果を上げているか (Q12×Q4クロス集計)

- 産学連携歴の違い(約1～3年、4～7年、8年以上)によって、学科目標やビジョンへの貢献度に差がみられることはあまりなかった。
- 考えられる示唆の例:歴に加えて教育プログラムを改善する取組(PDCAサイクル)こそが重要。/歴5年前後の差は成果に大きな差を生まず、より長期にわたって深めることが重要。

Q12.産学連携の活動が、貴学科の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？(単一選択式)

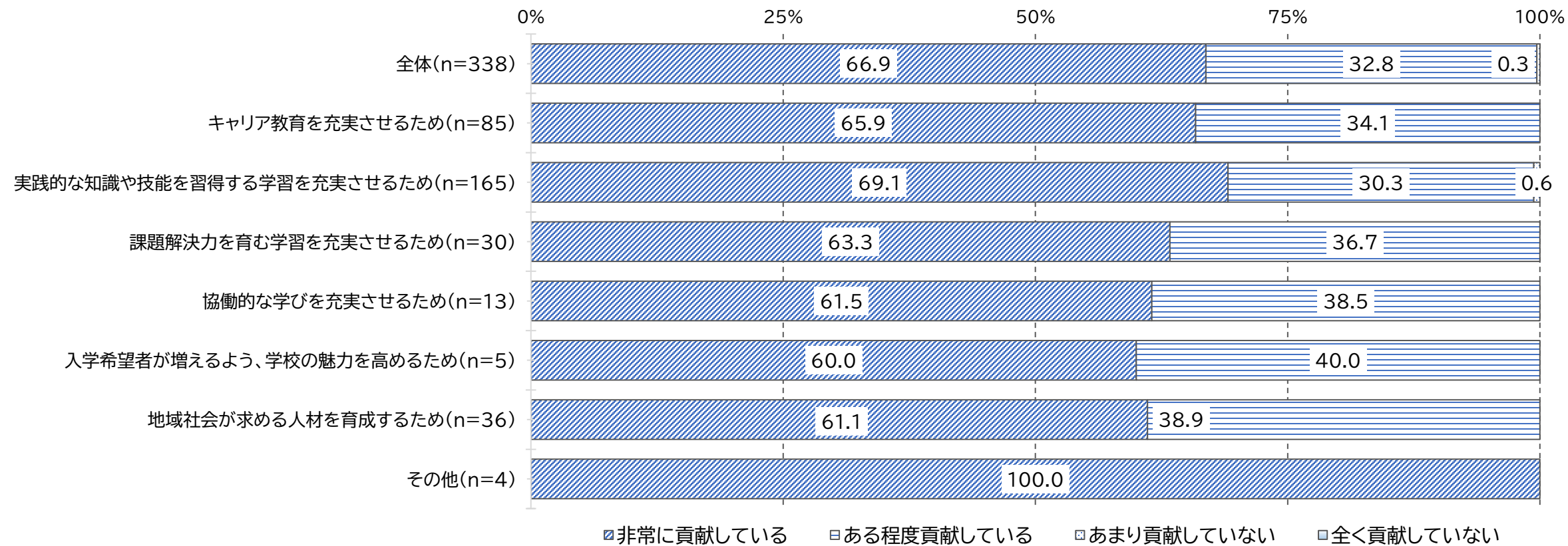


※Q4はQ1選択肢1「教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している」回答者217名のみが回答対象。

RQ: 取組目的により、成果の評価が異なるか(Q12×Q6クロス集計)

- 例えば、「実践的な知識や技能を習得する学習を充実させる」ことを産学連携の第一の目的に据えている学校において
学科目標・ビジョンへの貢献度が高い傾向がみられた(他群と比べて、「非常に貢献している」回答割合が最大約9%高い)。
- 考えられる示唆: 学科目標やビジョンの達成のためには産学連携目的をよく精査する必要がある

Q12.産学連携の活動が、貴学科の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？(単一選択式)



RQ:取組内容により、得られる効果に違いがあるか (Q13×Q7クロス集計)

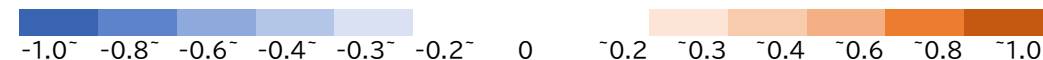
- 例えば、「生徒のキャリア意識」を高めるには、「産業界による資格技能検定取得の支援」や「産業界による進路相談の支援」が、また、「生徒の学習意欲」を高めるには、「産業界と連携した教育カリキュラムの検討」が特に有効(それぞれ実践校の9割前後が実感)。
- 得られる示唆の例:特に期待したい効果を見極めたうえで、産学連携の取組内容を選択することが望ましい

Q13.産学連携の取組を通じて、貴学科として実感しているメリットを教えてください。(複数選択式)

	合計	識生徒が高まったキャリア意	高生徒の学習意欲が	れにえ生徒たな、徒る工が傾向する分で考らう	な事生徒た進がめ協る働よしてに物	ま学校の魅力が高	たと地域の関係社会がや深産業界	むに教員が積極的な身に身つ取のたり研鑽	たり連教員が主産業界に的界となつ取の	特にない	分らない	その他	不明
合計回答者数	338	257	222	195	158	142	251	92	110	0	0	2	0
	100.0	76.0	65.7	57.7	46.7	42.0	74.3	27.2	32.5	0.0	0.0	0.6	0.0
Q7.産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容	産業界と連携した教育カリキュラムの検討	36	32	28	23	26	31	21	25	0	0	0	0
	学校と産業界のビジョン(育てたい生徒像や身につけたい力等)の	63	51	48	39	33	54	32	37	0	0	0	0
	産業界と連携して行う通年授業の実施	66	52	53	55	40	53	33	32	0	0	1	0
	産業界と連携したプロジェクト型課題探究型学習の実施	143	115	106	108	75	115	51	63	0	0	1	0
	産業界と連携した共同研究の実施	67	51	53	49	36	51	32	34	0	0	0	0
	インターンシップ職場体験現場実習の実施	279	226	184	158	115	219	82	100	0	0	2	0
	産業界から提供貸与された設備や教材等の活用	85	72	66	49	51	73	32	42	0	0	1	0
	産業界による資格技能検定取得の支援	107	99	79	60	48	91	39	46	0	0	2	0
	産業界による進路相談の支援	77	68	63	49	45	65	36	36	0	0	0	0
	産業界と連携した発表会イベントの実施	147	111	103	104	83	122	57	70	0	0	1	0
	産業界による出前授業講演の実施(年に1~数回程度)	256	207	177	151	110	201	81	92	0	0	2	0
	その他	4	3	2	3	4	2	1	2	0	0	2	0
		100.0	75.0	50.0	75.0	100.0	50.0	25.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0

結果(相関分析)

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



相関行列

			全国アンケート						
			産学連携の深さ	産学連携歴	産学連携に関与する企業・団体数	産学連携の学科目標・ビジョンへの貢献度	産業界と学校の関係の深まり	基礎自治体との連携の深さ	基礎自治体からの資源提供
			q1	q4	q8	q12	q15	q19	q20
全国アンケート	産学連携の深さ	q1	1.00	NA	0.26	0.41	0.30	0.34	0.08
	産学連携歴	q4	NA	1.00	0.18	-0.05	0.26	-0.16	-0.03
	産学連携に関与する企業・団体数	q8	0.26	0.18	1.00	0.37	0.20	0.00	0.08
	産学連携の学科目標・ビジョンへの貢献度	q12	0.41	-0.05	0.37	1.00	0.28	0.21	0.16
	産業界と学校の関係の深まり	q15	0.30	0.26	0.20	0.28	1.00	0.25	0.25
	基礎自治体との連携の深さ	q19	0.34	-0.16	0.00	0.21	0.25	1.00	0.54
	基礎自治体からの資源提供	q20	0.08	-0.03	0.08	0.16	0.25	0.54	1.00

- 産学連携の学科目標・ビジョンへの貢献度は、「産学連携の深さ」や「産学連携に関与する企業・団体数」、「産業界と学校の関係の深まり」、「基礎自治体との連携の深さ」と関連していた。一方、「産学連携歴」や「基礎自治体からの資源提供」とは関連していなかった。

※いずれもポリコリック相関係数として算出。

※黄色: 成果に相当する項目

※q4はq1選択肢1「教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している」回答者が対象のため、q1・q4間の相関係数算出結果はNA扱い。

付録(質問項目一覧)

付録:質問項目一覧

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q1	貴学科では今年度、産学連携の取組を実施していますか。	単一選択	・教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している 4pt ・年に数回の出前授業やイベント等、単発的な取組として実施している 3pt ・以前は実施していたが、今年度は実施していない 2pt ・以前より実施していない 1pt
q2	貴学科が、産学連携を実施していない理由を教えてください。	複数選択	・産学連携の必要性を感じていない ・適切な連携先の企業や団体等が見つからない ・連携先との関係性が十分に構築されていない ・教職員への負担が大きい ・生徒への負担が大きい ・産学連携の実施に対する教職員の意識が高まっていない ・産学連携の経験や専門知識を持つスタッフがいない ・産学連携にかかる経費が不足している ・その他()
q3	貴学科で、産学連携を教育課程の一環として組み込んでいない理由を教えてください。	複数選択	・産学連携の必要性を感じていない ・産学連携を教育課程の一環として組み込む必要性を感じていない ・適切な連携先の企業や団体等が見つからない ・連携先との関係性が十分に構築されていない ・教職員への負担が大きい ・生徒への負担が大きい ・産学連携の実施に対する教職員の意識が高まっていない ・産学連携の経験や専門知識を持つスタッフがいない ・産学連携にかかる経費が不足している ・その他()
q4	貴学科では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？	単一選択	・2022年以降に実施(現在の学習指導要領のもとで開始、1～2年前から) 1pt ・2018年度～2021年度に実施(現行指導要領施行前に開始、3～5年前から) 2pt ・2017年度以前に実施(6年以上前から継続して実施) 3pt ・いつからか不明 ・その他()
q5	産学連携に取り組んだきっかけを教えてください	単一選択	・学校だけではできない取組を実現したかったため ・産業界から提案があったため ・自治体から提案があったため ・その他()

付録:質問項目一覧

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q6	貴学科が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。	単一選択	・キャリア教育を充実させるため ・実践的な知識や技能を習得する学習を充実させるため ・課題解決力を育む学習を充実させるため ・協働的な学びを充実させるため ・入学希望者が増えるよう、学校の魅力を高めるため ・地域社会が求める人材を育成するため ・その他()
q7	今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。当てはまるものを全て選択してください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。	複数選択	・産業界と連携した教育カリキュラムの検討 ・学校と産業界のビジョン(育てたい生徒像や身につけたい力等)の協議 ・産業界と連携して行う通年授業の実施 ・産業界と連携したプロジェクト型・課題探究型学習の実施 ・産業界と連携した共同研究の実施 ・インターンシップ・職場体験・現場実習の実施 ・産業界から提供・貸与された設備や教材等の活用 ・産業界による資格・技能検定取得の支援 ・産業界による進路相談の支援 ・産業界と連携した発表会・イベントの実施 ・産業界による出前授業・講演の実施(年に1～数回程度) ・その他()
q8	今年度実施した産学連携に関わっている企業や団体等の数を教えてください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。	単一選択	・1つの組織のみ 1pt ・2～5つの組織 2pt ・6つ以上の組織 3pt
q9	今年度の産学連携に関わった企業や団体等の種類を全て選択してください。	複数選択	・民間企業 ・協同組合(農業協同組合や漁業共同組合等) ・産業団体(商工会、産業連合会等) ・教育機関・研究機関 ・社会教育施設 ・非営利法人 ・個人事業主 ・その他()
q10	連携している企業・団体等について、当てはまるものを全て選択して下さい。	複数選択	・学校近辺に本社や本部がある地元の企業や団体等 ・本社や本部は遠方にあるが、支社・営業所・工場・事務所などが学校近辺にある企業や団体等 ・学校近辺に拠点がない企業や団体等
q11	企業や団体等とどのような形で連携していますか？あてはまるものを全て選択してください。	複数選択	・個々の企業や団体等と個別に連携している ・商工会や農協などの産業団体を通じて、複数の企業や団体等と連携している ・学校運営協議会や産学連携協議会に企業や団体等が参画している ・学校と企業や団体等でコンソーシアムを構築している ・その他()

付録:質問項目一覧

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q12	産学連携の活動が、貴学科の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？	単一選択	・非常に貢献している 4pt ・ある程度貢献している 3pt ・あまり貢献していない 2pt ・全く貢献していない 1pt
q13	産学連携の取組を通じて、貴学科として実感しているメリットを教えてください。	複数選択	・生徒のキャリア意識が高まった ・生徒の学習意欲が高まった ・生徒が自分で考え、工夫するようになる傾向が見られた ・生徒が協働して物事を進めるようになった ・学校の魅力が高まった ・地域社会や産業界との関係が深まった ・教員が自身の研鑽に積極的に取り組むようになった ・教員が産業界との連携に主体的に取り組むようになった ・特にない ・分からない ・その他()
q14	産学連携の取組は、主にどの組織が中心となって検討を進めていますか。	単一選択	・学校が主体となって検討している ・企業や団体等が主体となって検討している ・自治体が主体となって検討している ・学校と企業・団体等が対等な立場で検討している ・学校や企業・団体等が参加する組織(コンソーシアム、協議会、委員会等)で検討している

付録:質問項目一覧

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q15	貴学科が連携している企業や団体等との関係について、最も適切なものを選択してください。 ※複数の組織と連携している場合は、最も多く該当する関係をお答えください。 ①一方のニーズに応えている関係 主に、学校や企業・団体等のどちらか一方のニーズに基づいて活動が行われている段階。 企業等側の課題やニーズを十分に理解できていない。 ②協力しあっている関係 学校と企業・団体等が互いに理解を深めながら、協力して活動している段階。 協力できる分野や活動についてある程度の共通認識があるが、活動内容はどちらか一方のニーズが優先されやすい。 ③共通のビジョンに基づいて協働している関係 学校と企業・団体等がそれぞれの課題や目指す方向を共有し、共通の目的やビジョンを持って活動を行っている。 学校と企業等との関係は互恵的で、双方が取組から恩恵を受けている。 ④安定して取組を継続していける関係 学校と企業・団体等の間で、長期的で安定した協働関係が確立されている。 共通の目的やビジョンが明確に共有され、計画から実施、評価まで一貫したプロセスに基づいて行われている。 担当者が変わっても、信頼関係や取組が維持できる体制が整っている。	単一選択	・①一方のニーズに応えている関係 1pt ・②協力しあっている関係 2pt ・③共通のビジョンに基づいて協働している関係 3pt ・④安定して取組を継続していける関係 4pt

付録:質問項目一覧

No	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q16	産学連携において、貴学科が抱えている課題があれば教えてください。	複数選択	・取組に必要な予算や資金が不足している ・取組が表面的で、十分に深められない ・中長期的なビジョンがない ・産業界の目的や方向性が学校と合わない ・担当者の負担が増えている ・教職員の理解が得られない ・生徒が意欲的でない ・産業界との関係が深まらない ・産学連携の成果が見えない ・特に課題はない ・その他()
q17	貴学科では、企業や団体等との調整業務を誰が担っていますか。当てはまるものをすべて選択してください。	複数選択	・学校の教職員が担っている ・学校外のボランティア(報酬なし)が担っている ・調整業務を担う専門人材(コーディネーター等)を配置している ・学校運営協議会や産学連携協議会の学校外メンバが担っている ・コンソーシアムの学校外のメンバが担っている ・その他()
q18	調整業務を担う専門人材(コーディネーター等)の配置にかかる費用は、どの組織が負担していますか。当てはまるものを全て選択してください。	複数選択	・学校設置者(都道府県教育委員会など)が負担している ・広域自治体(都道府県の地域振興部局など)が負担している ・基礎自治体(市区町村教育委員会や地域振興部局など)が負担している ・連携先の企業や団体等が負担している ・連携先の企業や団体等の職員がコーディネーターを兼務している ・国の補助金等を利用している ・財団・非営利団体から助成を受けている ・どの組織が負担しているか分からない ・その他()
q19	学校の所在する基礎自治体と連携した取組を実施していますか。	単一選択	・教育課程の一環として基礎自治体との連携を組み込むなど、継続的に実施している。 3pt ・年に数回の出前授業やイベント等、単発的な取組を実施している。 2pt ・実施していない。 1pt
q20	学校の所在する基礎自治体から、資金や人材の提供(寮の整備など場所の提供も含む)等を受けていますか。	単一選択	・受けている。 2pt ・受けていない。 1pt